

スピリチュアル界の巨匠・山川夫妻と タド・ジュンコ氏とのセッション

私たちは愛と平和を広めるために生まれてきた

「宇宙エネルギーとつながる食卓」をテーマに、自然派料理を提唱するタド・ジュンコ氏が、日本のスピリチュアル界の巨匠である山川絃矢・亜希子夫妻とのセッションイベント「Perfect Dream」を、2月11日(日)に開催した。山川夫妻は、『ザ・シークレット』や『アウト・オン・ア・リム』などの精神世界系の書籍の翻訳家として知られる他、『受け入れの極意』や『精霊の囁き』など、著書も多数手がけている。一方、タド氏は編集者だった頃に山川夫妻と知り合い、独立してから自著の推薦文を書いてもらったという縁がある。

当日は、最初にマリンバ・トリオの「アンサンブル・マレット」が、マリンバを演奏。クラシックな曲やジブリの曲を演奏したあとは、アンサンブル・マレットの伴奏に合わせて、山川夫妻が「コトダマミュージック」の曲から「アワの歌」と「種は種」の2曲を披露した。コトダマミュージックとは、日本古来の和歌などに、メロディを付けた音楽のジャンル。山川夫妻はコトダマミュージックのCDも発売しているという。その後はトークタイムへ。タド氏と山川夫妻の3人が登壇し、自由なテーマでトークを行った。

山川夫妻の「自分たちは、愛と平和を広めるために生まれてきたということが分かった」「皆さんも自分のやりたいことをやって楽しめば良い。だけど、本当のあなたはこの世界を救いにきている」「救うのは自分1人で良い。1人ひとりが自分を救えばとても良い世界になるから」という話に、来場者は耳を傾けていた。

また、2人がスピリチュアリティに目覚め、翻訳を始めたきっかけも披露。かつて、アメリカで生活していたときにシャーリー・マクレーンの『アウト・オン・ア・リム』を読み、「これが本当の世界なんだ」「この本を日本語で出してほしい」と思い、日本の出版社に働きかけたのだという。

その当時は英和辞書で調べても、適切な言葉が載っておらず、かなり翻訳には苦労したといったエピソードも紹介し、「30年間やってきて、日本のスピリチュアル界もさまざまなものが出てきて、進化も遂げたと思います」と振り返った。2人は今年で結婚50年、翻訳生活30年になるという。

さらに、2人のおすすめの著書などに話が及んだ後、来場者からの質問に2人が答える場面もあり、「英語圏と日本でスピリチュアルという概念にはどのような違いがあるのか?」といった質問が寄せられた。

最後には、来場者も壇上に招き、全員で「アワの歌」と「種は種」を歌って、イベントは終了となった。



トークセッションを行う山川亜希子氏(右)と山川絃矢氏(中央)、タドジュンコ氏(左)。



結婚50年、翻訳家になって30年になるという山川夫妻。作家活動の他、歌やダンスの会も行っている。



当日はマリンバの演奏も行われ、クラシックやジブリの曲も演奏された。

構成◎本誌編集部
取材協力◎ワンネスフード協会/タド・ジュンコ健康料理スクール
info@tado-junko.com http://tado-junko.com

Nature World PRESENTS
Love's Alchemy
愛の錬金術
ワークショップ 2018
by. Sky Shayne Innes

私達は知っています。もしあなたが世界を変えたいければ、
自分自身を変えなければならないことを。
もっと素晴らしい可能性が存在することも知っているのです。
しかし、日常のプレッシャーが私達の視野を曇らせ、
その可能性さえ疑ってしまうのです。

Sky Shayne Innes スカイ・シェーン・イネス

ジンバブエ生まれの英国育ち、現在は豪州に在住。13歳の時、母と一緒にヨガと瞑想をはじめ、「どうして人間は今の生き方をしているのだろうか」という質問の答えを出すために、大学にて社会学と心理学の学位を取得。その後、魂の叫びの答えを求めてバリ島やインドへ。1989年よりスピリチュアル・セラピストとして活動をはじめ、現在は「Love's Alchemy」のコースや個人セッションを実践中。

東京
1dayコース

180度違う自分になる!
～スモール I (愛) から
ビッグ I (愛) へ～

【日時】
4月19日(木) 10:00～18:00

【会場】
ネイチャーワールド
セミナールーム

【受講料】
21,600円(税込)

京都
2daysコース

トランスフォーム
ユアライフ
人生の変容～
生きる力を取り戻す

【日時】
4月21日(土)22日(日) 9:30～17:30

【会場】
放光山・長福寺
(京都駅より徒歩10分/九条駅より徒歩1分)

【受講料】
41,040円(税込)

京都開催は、
放光山
長福寺にて!

京都
1dayコース

第4チャクラを開き、
ハートの叡智に繋がる

【日時】
4月23日(月) 9:30～17:30

【会場】
放光山・長福寺
(京都駅より徒歩10分/九条駅より徒歩1分)

【受講料】
21,600円(税込)

★各ワークショップの詳細につきましては、HPにてご確認ください

500ページを超えるボリューム! 2000種もの商品内容を紹介!

新カタログ
無料配布中!

フラワーエッセンス ◆ 新 カタログ
「大自然からの贈り物」

*メール(info@natureworld.co.jp)にて、住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、ご連絡ください。

ネイチャーワールド株式会社 <http://www.natureworld.co.jp>
東京都千代田区飯田橋 3-3-7 秋穂セントラルビル TEL:03-5214-4881 E-mail:info@natureworld.co.jp



水に転写した花のエネルギーが感情を癒す、フラワーエッセンス。このエッセンスを花だけではなく、動物、鉱石、惑星など、1000種類以上のレパトリーを作り出しているのが、アンドレアス・コルテさんです。

東日本大震災の被災地において、毎年のように癒しを提供しつづけている彼の活動と、フラワーエッセンスの持つ未来の可能性を、自然療法家の樋渡志のぶさんがレポートします。

樋渡志のぶ © 文 自然療法家

FEプロデューサー、アンドレアス・コルテさん フラワーエッセンスと 光の癒しの贈り物を 被災地に送りつづけて――

フラワーの域を超えた 豊富なエッセンスとクリスタル法

3・11から7年。東日本大地震を境に、私たちを取り巻く環境は、すっかり変わりました。目に見えないけれど、この瞬間にも太平洋から流れる北西の風につれて舞い続ける放射能。その放出を止めることはできず、今もなお、34202名(復興庁データ提供)の2018年1月30日現在)の人々が、

福島県外に避難して生活が続いています。

わたしたちは、この事実と向き合い、どう生きてゆけば良いのでしょうか？ 自然療法には、その答えを示す道筋はあるのでしょうか？ 本稿では自然療法家の筆者が、1000種類以上のエッセンスを創るFEプロデューサー、アンドレアス・コルテさんと、多彩なフラワーエッセンスを届けるネイチャーワールド株式会社、玉井宏社長



東日本大震災の被災地に毎年配布している、TIとイルカのエッセンス。

の活動を、昨秋の福島への同行を踏まえてご報告します。

2011年から毎年一度、福島原発と被災者のために、フラワーエッセンスを直接届けつづけているドイツ人のアンドレアス・コルテさん。フラワーエッセンスの作り手として、世界中で活躍しており、最先端の癒しとも言える、光・色・エッセンス・音を組み合わせさせたホリスティック・ライト・トリートメント(HLT)「写真左」を普及するセラピストでもあります。

フラワーエッセンスとは、感情を癒す自然療法の一つです。1930年代に、英国の医師、エドワード・バッチ

博士が、人間なら誰もが持つネガティブな感情を38種類に分類し、それらを癒すエッセンスを野辺に咲く花々から作り体系づけました。欧州では医師が処方する国もあり、英国では受験シーズンには売り切れる種類もあるほど一般的です。

コルテさんがプロデュースするエッセンスの特徴は、フラワーの域を超え、イルカやワシ、蝶などの動物たち、ダイヤモンド、エメラルド、ラピスラズリなどのジェム(鉱石)類、きのこ類、さらには、クロップ・サークル(写真左)、惑星など、フラワーの枠を超えた、1000種類以上の豊富なエッセンス

のレパトリーです。

植物の花々を摘み取らない「クリスタル法」を編み出したことでも有名で、エドワード・バッチ博士の38種類もクラシック・エッセンスとして、その手法で作っています。どんなエッセンスを創る時も、まずはその対象となる存在と土地に感謝の祈りと協力を伝え、相手の了承を得てから行います。

コルテさんのこの姿勢からは、エッセンスとなる全ての対象に優しさと思いを感じます。かつてバッチ博士も、弱っている患者に注射を施すことに対して「これ以上痛みを与えたくない」と苦痛を感じ、ホメオパシーの経

口薬を開発した経緯を持つ思いやりのある医師。少量の花だとしても、摘み取らずに創れるこの新しい方法を、歓迎していることでしょう。

福島にフラワーエッセンスを 届け続けて7年

震災直後、玉井社長のもとに「今すぐ日本に手伝いに行く」とコルテさんから電話が入りました。「今は計画停電もあり混沌としていて、何もできない状態ではないから」と止めるのが大変だった、と当時を振り返ります。

コルテさんはソビエト連邦(現ウク

ホリスティック・ライト・トリートメントとは？

ホリスティック・ライト・トリートメント(HLT)とは、光・色・音とエッセンスを組み合わせる、とてもユニークなトリートメント。自尊心を高め、不安が解消され、自己治癒力を刺激する。クライアントは、ただ椅子に座るだけ。そして、優しい音楽に包まれながら、美しいエッセンスの映像とエネルギーを、光を通して浴びます。クライアントに投影された映像が、皮膚やオーラに影響を与え、心身・精神・魂の調和をもたらす。

コルテさんが開発した後、ドイツでは、相乗的なヒーリング効果があることが、研究者によって科学的に検証されている。震災直後は、被災者の方々へ無償でトリートメントを提供。その効果を体験し、毎年受講する方もいる。



クロップ・サークルとは？

クロップ・サークルとは、別名ミステリー・サークルとも呼ばれる環境を癒す目的で創られたエッセンス。1980年後半、イギリス、オーストラリア、カナダ、アメリカ、ドイツを含めた12カ国以上に出現している。コルテ氏は、2001年、ドイツでその強いエネルギーをいくつか経験して以降、現地に赴き、独自のクリスタル法を通じて、エッセ

ンスを作っている。サークルは、数日〜数週間しか存在しないので、一刻も早く現地に赴き創る必要がある。集合的無意識を癒し、グルーピング的な波動を高め、自己治癒力を加速させ、自然界のバランスをとり、特に神聖な場所を再活性化するのに使う。



コルテ氏は、バッチ博士のフラワーエッセンス(写真はスター・オブ・ベツレヘム)を作り始め、その無限の可能性に気がついてから、感情を癒すエッセンスに加え、チャクラ、ハイヤーセルフ、集合意識、動物や大地、そして地球環境を癒すエッセンスの開発に着手した。

※1……<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/250626.pdf> ※2……PHIとは、Potential Humano Integral(人間の可能性を統合する)の意味。バッチ博士は数多くの臨床経験から、身体に表れる病気は、魂と心の不調和からもたらされることに気がつきました。「私心を捨て、謙虚・献身という魂の成長のために、我が身を捧げて生きることが治癒の道であると説きました。コルテさんのPHIエッセンスは、まさに、わたしたち人間の無限の可能性を助ける頼もしいシリーズ。 ※3……花が満開で晴天の日に、その花を摘み取りガラスボウルに入れる太陽法と、鍋で煮出す煮沸法の2つが従来の作り方。コルテさんは、花の近くにクリスタルボール水を置いて、そのエネルギーだけをいただくことで、花を摘み取らなくてもよい方法を編み出した。



2011年には、4000本のエッセンスを無償で提供してくれたコルテさん。それらの小瓶と、1本1本に詰め替える途方もない労力を、惜しみなく提供してくれたのが、ネイチャーワールドのスタッフだった。梱包・発送にかかる労力も計り知れないが、欠かすことのできない大事な工程だ。



コルテさんの被災地におけるフラワーエッセンス配布の行程は、宮城県南部の亘理町阿武隈川河口にはじまり、福島県南部のいわき市までに及ぶ。海岸沿いを伝うその距離は、実に90km。震災直後は、福島第一原発付近には一切近づけなかったため、迂回すると距離も時間も1.5〜2倍近い。2017年には、南の海岸から一部を望める位置で活動できた。

右から、玉井社長、著者、コルテさん、「レイ・エッセンス」プロデューサー富井清文さん。写真を記録してくれたのは梅倉茶館(エッセンスを体験できるカフェ@池袋)のコーダさん。毎年、ネイチャーワールド関係者を始め、さまざまなセラピストがエッセンス配布、運転、宿泊手配や被災地との連絡などを手伝ってくれて今に至る。



チェルノブイリ原発事故後、被災者の支援と汚染された地域の浄化のために生れた「T1」。通常、全てのエッセンスは、放射線をするが、「T1」の特徴は、過剰なエネルギー、ネガティブなエネルギーを吸収するという独自性がある。一方の「イルカ」は、私たちがその姿を思い浮かべるだけでわくわくする存在。純粋な気持ちを思い出し、すべてのレベルでのクリーニングをもたらす。この2つのエッセンスの組み合わせを、毎年福島に届けている。



ことで真の治癒がもたらされます」
これは、バッチ博士が1931年に「汝自らによつて病む」の小冊子に残した一文です。福島をはじめ、被災地への思いは、みんな同じです。けれど、できることはみんな違い、それぞれの役割があります。自分にできることを、淡々と行う。そのことを、コルテさんや玉井社長は身をもって教えて下さいました。
放射能は、今この瞬間にも出づついています。その事実が、今の時点では変わりません。エッセンスがこの時代に存在していることは、とても大きな意味を持ち、これからますます必要とされる自然療法のひとつツールとして、わたしたちに悟りを促し、調和をもたらしてくれるでしょう。

当面は、放射能と共に生きる術を身につけることも重要です。
放射能は専門の機械で計測できても、目に見えない存在です。これから何が起きるのかさえも、私たちは分かりません。そんな時、フラワーエッセンスの役割は、大いに役に立つ自然療法の一つとして一筋の光を示してくれます。それは、私たちが持つていく、目に見えないけれど感じることでできる恐れ、悲しみ、怒り、やるせなさ、迷い、罪悪感といった、ネガティブな感情を癒すこと。そして、コルテさんが作りつづけてくれたエッセンスのシリーズは、人間と動物・鉱物・菌類などの自然界との調和のあるつながり、環境の癒しを導いてくれます。
「悪には善が、闇には光が入れ替わる

フラワーエッセンスの基本 「我が使命」を果たす

「自らを癒し、自由になり、使命を生きていくこと」
これは、フラワーエッセンスの癒しの最終目的地です。バッチ博士も、自分の使命に生きることを治癒の工程において、とても大事にしていました。「魂からの語りかけである心からの願いに耳を傾け、その声に従う勇気を持つこと以上に、良い決意はない」とも述べています。コルテさんと玉井社長も、その教え通りに生きていくような二人です。
コルテさんは前述したように、それ

ライナ)のチェルノブイリ原発事故後も、被災者の支援と汚染された地域の浄化を「T1」と「イルカ」のエッセンスを使い取り組んできた実績があります(155頁写真参照)。1999年に起きた東海村の原発事故現場にも赴き、エッセンスを散布したことも。震災の年の秋からは毎年、直接エッセンスを届け、「T1」を散布するなど、来日の度に福島を訪れています。
現地では、放射線量の確認もします。エッセンス散布後は、空間線量が20〜30%位下がることも計測できました。また、散布した海の上空には、カモメやウミネコが気持ちよさそうに舞う姿を何度も確認できたそうです。

一方、玉井社長の使命は、「フラワーエッセンスを日本に普及・定着させ、生きる喜び、愛のある世界の実現と地球や自然と共生すること」。その言葉を証明するかのようには、日本で最も多くのフラワーエッセンスを取り扱い、たくさんさんのエッセンスに直接出合える夢のようなお店を展開しています。大都会の中にながら、癒される幸せな空間。ボトルの中の植物をこの上な

までは存在しなかった「クリスタル法」を編み出し、植物以外の自然界とのつながりを強くするエッセンスを創り出した。現代人が自然界から遠ざかる生き方を選んでいるのは、実は誰のせいでもなく、私たち一人ひとりの行動の結果です。そのことに気がつき、この地上に存在している命とのつながりを強めるサポートするのが、コルテさんのエッセンスシリーズです。感情を癒すバッチ博士のフラワーエッセンスをさらに深め、人間と自然界のつながりと調和をとるエッセンスを創ることが、彼の使命だったのです。
1000種類もあるエッセンスは、到底覚えられないのでは?と思いきや、全てのエッセンスを、まるで愛しい友人を紹介するように教えてくれます。コルテさん自ら現地に赴いて創った1本1本のエッセンスの誕生秘話は、まるで自分も、そのボトルと一緒に創った現場にいたかのような臨場感を与えてくれます。

バラの故郷は金星——植物は、宇宙とのつながりを教えてくれる

玉井社長はフラワーエッセンスを本格的に始めた20年前のことを、「これから絶対に必要になることは、直感で分かりました。けれど正直に言うと本当に効くのかなあと疑う時期が2年くらいありました」と振り返ります。その後、体験談のシャワーを浴びつづけ、自分でもフラワーエッセンスを使いこなせるようになってくると、疑う必要が全くなくなったと言います。
「コルテさんのように、放射線量が高いところや、エッセンスの放射力が分かるほど敏感ではないのですが(笑)、私自身植物とフラワーエッセンスを通して、宇宙とつながっていることを理解できるようになりました」
玉井社長はご自宅で、バラ450本、蘭200鉢を育てている大の植物愛好家。植物の観察がもたらしたギフトをこう語ります。
「バラ科の生まれ故郷は金星、という話を聞いたことがありますか? わたしは2004年に、地球と金星が近づ

く慈しむ創り手たちと、プラクティショナーやユーマーをもつなげてくれるセミナーをたくさん手掛け、数多くのセラピストを輩出しています。私自身も、コルテさんのセミナーに参加し、新しい気づきを受け取りました。

眠らない街・東京を中心とする日本。この経済大国のために電気を送り続けた福島原発は、今や放射能を送り続ける巨大な装置と言えます。その意味は何なのでしょう?
原発から出る人工的な放射線量は、健康を促すものではなく、DNAを破壊し、病気を促す存在。自然療法家にとって治癒を妨げる原因を取り除くことは、最重要課題です。けれど、私たちが作り出した原発が生み出す放射線を止める技術を、人類はまだ持つていません。その解決策を求めるとともに、

いた時に納得しました。なんと、その年のバラの花は、通常の1.5倍も大きくなったのです。バラ愛好家の仲間もみんな同じ現象を共有しました。宇宙とつながっている、とはそういうことだったのか!」
嬉しそうに語る玉井社長の顔は、少年そのもの。それは、スピリチュアルや精神世界というよりも、いかに自分の感覚を頼りにして、自然を観察する訓練ができていくかの話です。実際に金星が地球に近づくバラ科の花が大きくなる事実は、太陽系の巡りが生み出す軌道からも説明できる時代になってきています。

放射能と共に生きる時代に フラワーエッセンスの役割とは?